

## 令和5年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>① 授業の質と量の確保・向上を図るとともに、学校設定教科「共創・探究」をハブ（接続拠点）に情報活用能力、問題発見・解決能力、論理的思考力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p> <p>② 知・徳・体のバランスの取れた教育の実践を通じて、豊かな感性を育み、世界を変えていけるような高い志を持った生徒を育てる。</p>	<p>① SSH事業に係るこれまでの3年間の取組を振り返り、生徒の取組や学習成果を評価する手法の開発や改善、整理をすることで、今後の探究学習の深化につなげていく。</p> <p>② 企業や大学等との連携や国際交流を通じて、生徒一人ひとりの「主体性」を育成し、将来を見据えた高い志を支えていく。</p>	<p>① 大学等との連携により専門職人材の支援を得て課題研究の指導を充実させるとともに、ルーブリック評価等、有効な評価手法の開発や改善を進める。</p> <p>② 生徒一人ひとりが外部資源に積極的にアクセスし、自らの考えを広げ深めることができたか。</p>	<p>① 研究機関や企業との連携を拡大させ、外部人材を活用するとともに、有効な評価方法を検討・実施して生徒の育成状況を見取ることができたか。</p> <p>② 生徒による授業評価において「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」と回答する生徒の割合が50%を超えたか。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>① 社会の一員としての規範意識や公共心を持ち自覚ある行動がとれる生徒を育てる。</p> <p>② 健やかな身体といのちを尊重する自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。</p>	<p>① 道徳教育の充実を図ることで、日頃から基本的な社会マナーを守る態度を身に付けさせる。</p> <p>② 生徒が抱える課題を早期に発見し、関係する教員が情報共有し組織的かつ迅速に対応する。 ・教科外活動を通じて、生徒の「主体性」を育成する。</p>	<p>① 全校集会やHRなどで、自転車乗車マナーの指導を始め、自分たちが社会の一員であることを強く意識させるような指導を工夫していく。</p> <p>② SC・SSWとの連携を図りながら学校外の機関との情報共有を進め、課題解決を図っていく。 ・生徒の自主的、自律的な活動をきめ細かく支援する。</p>	<p>① 近隣住民等外部からの苦情を減少させることができたか。</p> <p>② ケース会議等を踏まえ、個々の事案に対する対応方針を迅速に決定し、保護者との協力関係を構築することができたか。 ・「魅力と特色づくりについてのアンケート」結果で、充実した教科外活動ができたとの回答が70%を超えたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・ 支援	① どんな困難にも果敢に挑み最後まで諦めずに難関国公立大学等、個々の第一希望の進路実現に向けて力を尽くす生徒を育てる。	① 進路実現に向かう生徒一人ひとりの高い志を保ち、難関国公立大学への現役合格者10名。スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上を達成させる。	① 生徒に対して継続的な面接指導を行うとともに、難関大学特別講座等を開催、入試に対応できる力を身に付けさせる。	① 難関国公立大学への現役合格者10名。スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上の目標が達成できたか。
4	地域等との 協働	① コミュニティスクール(学校運営協議会)の充実を図る。 ② 防災教育、防災体制を強化する。 ③ SSHの取組に係る連携を推進する。	① 目標の達成状況に関する校内評価をもとに、学校運営協議会で協議いただき、協議会としての具体的な提言をまとめていく。 ② 防災訓練のあり方や日頃の地域への関わりかたを再検討し、より効果的な地域連携を実現させる。 ③ 企業や研究機関との連携を広げ、SSH事業のさらなる深化に繋げる。	① 年度途中に目標の達成状況を確認し、スケジュール感をもったマネジメントを図る。 ② 地域と協働した防災訓練の実施、生徒会組織を活用した地域への働きかけを強化する。 ③ 連携可能な企業や研究機関等の開拓について、平塚市域を中心にさらに進めていく。	① 今年度の目標達成状況を踏まえ、令和6年度からの新たな4年間の目標設定に向けた見通しを立てることができたか。 ② 生徒会組織による地域ボランティア等が実施できたか。訓練の結果、諸課題を地域の方と共有できたか。 ③ 新たな連携先を開拓するとともに、連携の継続性を確保できたか。
5	学校管理 学校運営	① 安全・安心な教育環境を整備する。 ② 事故・不祥事の防止に努め信頼される学校づくりに邁進する。 ③ 教員のワークライフバランスを推進する。	① 北館トイレ工事をはじめ校内環境の整備を進める。 ② ハラスメントに係る事故等、不祥事案件を1件も発生させない。 ③ 時間外労働を始めとした職場環境の課題を職員間で共有し、健康増進に係る意識の向上を図る。	① 衛生委員会と連携し、教育環境について定期的に課題の改善状況を検証する。 ② 教職員が主体となった事故防止研修を企画する。 ③ 残業時間の抑制について研修の機会を設け、職員の意識改革を図る。	① 教育環境の改善状況を「見える化」することで職員の意識向上を図ることができたか。 ② アンケートの結果から、職員の不祥事防止に関する意識を確認する。 ③ 時間外労働時間の定期的な確認と産業医の面接指導を適切に設定し、残業時間の抑制を実現できたか。